

令和 6 年度北栄町介護保険事業計画・高齢者福祉計画策定委員会 記録

日時 令和 7 年 3 月 7 日（金）13:30～15:05

場所 北栄町役場 3 階第 1 委員会室

出席者 委員 9 名（西村、大西、磯江、岩垣、金山、中村、野間、桑田、立石）（欠席 4 名）
事務局 5 名（小澤福祉課長、池田地域包括支援センター長、松嶋生活支援室長、杉川介護保険室長、前田主事）

1 開会

2 あいさつ

小澤福祉課長

3 会長、副会長の選出について

会長に大西氏、副会長に田村氏を選任。

4 議事

(1) 介護保険事業等の実施状況について

●事務局から資料説明

別添資料に沿って説明。

●質疑、意見等

○委員

- ・ P2 施設系サービスが伸びているのはなぜか？

北栄町外では定員に達していない事業所もあり、逆に伸びていない印象がある。

→委員

- ・ 北栄町は町内に 2 か所老健があるが、特養がない。特養は国が定めた判定基準で入所となるため、空きができることがある。方や老健は優先順位等の基準に関係なく入所できるため、ほぼ空きがない状態で推移していることが影響しているものと考えられる。

○委員

- ・ 今後も入所サービスが増えた場合、影響が出るか？

→委員

- ・ 要介護認定が軽度の場合と重度の場合では、同じ入所数であっても給付費に差が出る。

→事務局

- ・ 明確な理由はわからない。要介護度の高い方の数は減少している。

○委員

- ・ P5 高齢者サークル。個人的にサークル活動の世話をしており、こういった事業があって助かっている。財源がないので、助成があると助かる。今後も継続してほしい。

○委員

- ・ こけないからだ体操とサークル活動は同じものか？

→事務局

- ・ サークル活動の中でこけないからだ体操をやっている団体もある。
- ・ いきいきサロンの中でこけないからだ体操に取り組む団体も多い。

○委員

- ・ サークル活動やこけないからだ体操はうまくいっているが、それにこぼれている人がいる。常連の人はいいが、来る人と来ない人がわかれてしまっているため、我々参加者側も声をかけてあげないといけないが、行政側からも機会を見て誘ってあげてほしい。

→事務局

- ・ なかなか参加できない人については、地域包括支援センターに教えてもらえば、声かけしていきたい。社協とも一緒になって出かけにくい人への働きかけをしているので、地域の方とも情報共有をしながら取り組んでいきたい。

○委員

- ・ 固定化してしまっていて、出られない人も結構多い。足が悪くて出られない人もいますが、送迎は難しい。例えば瀬戸は乗合タクシーの取組を行っているが、解決にはつながっていない印象。行きたいけど行けない人に対する支援が課題と感じる。

→事務局

- ・ 自治会の公民館へも行けない人の問題は以前から出ている問題。

○委員

- ・ 誘いに行っても嫌がる人もあり、難しい問題。

→事務局

- ・ 「にじいろカフェ」「ほっこりひろば」は送迎がある。自治会を超えての開催であり、外出できなかった人の出かけるきっかけとなっている。

(2) その他

●事務局から案内

- ・ 介護予防フェスタ2025開催

世界アルツハイマーデーのある9月が認知症啓発の月間であるため、9月中の開催で検討しているところ。2月に脳活クラブの同窓会を開催し、脳活クラブで取組を行われた方のその後の経過を追う記録を行った。これは、「とっとり方式 認知症予防プログラム」の成果を研究しておられる鳥取大学の上月先生とタイアップしてのもの。このフェスタで研究成果を発表してもらう予定。

- ・ 江府町長と北栄町長が介護予防で対決

地域課題から「働き世代の介護予防」の取組不足が課題として出てきたことから、両町長が率先して取組を実践し、身をもって介護予防の必要性を訴求する企画。

北栄町長は町歌に合わせて体操する「いいね！北栄町体操！」を継続実施。体組成計で計測して改善状況を競う。6か月後の8月に結果発表なのでご注目を。

●案内に対する質疑等

○委員

- ・体組成計を地域に貸出してもらうことは可能か？

→事務局

- ・可能。すでに職員が持ち出して出かけているところもある。

○委員

- ・介護予防フェスタ2024参加者から「認知症の人は何もできないというイメージだったが、意識が変わるきっかけになった」という声があった。今後もこのような取組は継続してほしい。

○委員

- ・以前、認知症の人と話すボランティアをしたことがあったが、会ってみると認知症がある人だとわからなかった。その人がその人らしく生きることができるよう、認知症のイメージを変えていく必要があると改めて感じた。